

東京都が目指す「次世代の学びの基盤プロジェクト」(概要)

～「新たな教育のスタイル」の確立に向けて～

(現状・背景等)

- 予測困難な時代が到来し、社会経済の不確実性が増大
- 高等学校では、学校や教科書で学ぶ体系的な学問領域に縛られず、生徒が自由に学びを深めることが必要
- デジタル端末で、興味関心に応じて多くの情報を得られる時代となり、生徒の学ぶ選択肢・領域の拡大への対応が必要

これまで

特色ある学校を設置して
興味関心に応えてきた

学校レベルから
個人レベルへ

これから

全ての学校で一人一人の
生徒の興味関心に対応

学びの在り方そのものを見直し、
一人一人の興味関心や適性に合わせた教育への変革が必要

「次世代の学びの基盤プロジェクト」

三位一体の改革により、東京における学びの基盤を構築

- DX** デジタルとリアル最適な組み合わせ
- 制度** 学習内容や方法、単位の認定等の柔軟な運用
- 教員・組織** 教員の役割や組織のあり方の改善

自立した学習者の育成

知識や思考力、創造性、社会性などとともに、生涯に渡り、
持続的に学び続ける力、自分で選択し決定する力を身に付ける

都立高校を「新しい学びの場」へ進化

「新しい学びの場」における教育

- 1 デジタルとリアルを組み合わせた学び**
(個別最適・協働的な学びを通じて主体的に学ぶ姿勢を育成)

デジタルの教育をリアルの教育に繋げる(例)
いつでも・どこでも、興味関心に応じた学習に取り組める
遠隔授業で、生徒の特性に応じた学習機会を充実

デジタルを活用し、リアルの教育を一層充実(例)
探究学習では、未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」が身に付く

デジタルとリアルを最適に組み合わせ、広がる新たな学び

- 2 教員が生徒の学びを伴走**
- 3 LMSにより多様な学び方を実現し、教育効果を高める**

「新しい学びの場」で育成する人材

上記①～③により
効果を最大化

